



「よさこい秘話」を披露する高岡さん（左）と山田さん

## 脚本制作 語り部デビュー

# 僧侶の悲恋 しょとらり

### 「よさこい秘話」

久万高原・高岡さん

「坊さん、かんざし買うを見た」のよさこい節で知られる僧侶純信とお馬の生涯を、上浮穴郡久万高原町直瀬の町職員高岡啓一さん(56)が「よさこい秘話」として脚本にまとめ、二十四日、同町上黒石の美川農村環境改善センターであったみかわ文化祭で、語り部として初めて披露した。

純信は幕末の高知の僧侶で、お馬との恋を問題視した土佐藩から追放され、川之江(四国中央市)などに住んだ後、現在の久万高原町東川で亡くなった。高岡さんによると、お馬のためにかんざしを買ったのは純信ではなく、弟子の慶全と

いう。

町内の民話を調べていた高岡さんは、純信とお馬の物語に興味を持ち、昨年六月ごろから調査を始めた。真実に追ろうと文獻をあさり、四百通り近くあるよさこい節の歌詞から、純信お馬にまつわる歌詞約二十個を選び

出した。

「よさこい秘話」には、よさこい節も交えており、高岡さんは語りとうたの師匠について練習を続けている。

勤務先(さむえ)姿でみかわ文化祭の壇上に座った高岡さんは、落ち着いた口調で「よさこい秘話」を披露。よさこい節の部分は伊予節研究会の山田高子さん(62)・松山市石手一丁目IIが三味線を弾きながらしっかりとうたい、聴衆から拍手を受けた。

高岡さんは「聞く人の心にしみいるよう毎日練習して、よさこい節も自分であらうつもり。福祉施設などで披露したい」と意気込んでいる。